

## 【12】入滅の月・日

[1] 仏伝經典には入滅の月日を記す資料はない。

[2] その他のインド撰述文献資料を紹介する。すべて「2月15日」である。

①Mahāvamsa；クシナーラーの沙羅双樹の間のよい場所で、ヴェーサーカ月の満月の日に (vesākhapunnamāyam) 世間の灯は般涅槃された。III-2 p.016

②Samantapāsādikā；ヴェーサーカ月の満月の日の早朝に無余涅槃界に般涅槃したとき…… (vesākhapunnamadivase paccūsamaye anupādisesāya nibbānadhātuyā parinibbute)。vol. I p.004

③大般涅槃經 (40巻本) 卷1；二月十五日臨涅槃時、以仏神力出大音声……。大正12 p.365下

④大般涅槃經 (40巻本) 卷30；如来何故二月涅槃。二月名春、春陽之月万物生長……。大正12 p.545上

；如来初生出家成道轉妙法輪皆以八日、何故涅槃独十五日……。大正12 p.545上

⑤大般涅槃經 (36巻本) 卷1；二月十五日臨涅槃時、以仏神力出大音声……。大正12 p.605上

⑥大般涅槃經 (36巻本) 卷28；如来何故二月涅槃。善男子、二月名春。春陽之月万物生長……。大正12 p.790中

；如来初生出家成道轉妙法輪皆以八日、何故涅槃独十五日……。大正12 p.790下

⑦善見律毘婆沙 卷1；於俱尸那末羅王林娑羅双樹間、二月十五日平旦時、入無余涅槃。大正24 p.673中

⑧大般泥洹經 卷1；一時仏在拘夷城力士生地、熙連河堅固林双樹間、与八百億比丘前後圍遶、二月十五日臨般泥洹。大正12 p.853上

なお、“Dīpavamsa”は、般涅槃後4ヶ月にして第1結集が行われたとする (parinibbute catumāse hessati paṭhamasaṃgaho) (1)。これは雨安居中に行われたのであるから、2月15日に入滅されたという伝承を下敷きにしているのであろう。

(1) p.015

[3] 中国撰述文献資料を紹介する。

[3-1] 「2月15日」とするもの。

①歴代三宝紀 卷1；二月十五日後夜於中天竺拘尸那城入般涅槃。大正49 p.023中

②唐護法沙門法琳別伝 卷中；周穆王五十二年壬申之歲二月十五日、仏年七十九方始滅度、故涅槃經云、二月十五日臨涅槃時、出種種光、大地六種震動……。大正50 p.207中

③大慈恩寺三蔵法師伝 卷3；仏処世八十年、以吠舍佉月後半十五日入涅槃。当此二月十五日。説一切有部復云、仏以迦刺底迦月後半入涅槃、当此九月八日。大正50 p.235中

④釈迦氏譜；涅槃云、二月十五日晨朝放光照大千界……。大正50 p.093下

⑤ 仏祖統紀 卷4；(述曰) 則知此年(53年) 二月十四日下閻浮提、十五日入涅槃。  
大正49 p.165上

；二月十五日、仏在拘尸那城此云三角力士生地娑羅双樹間、臨涅槃時……。大正49 p.165中

[3-2] 「2月8日」とするもの。

① 釈迦譜 卷4；菩薩処胎經云、仏在双樹、欲捨身寿入涅槃、二月八日夜半。大正50 p.073中

[3-3] 「3月15日」とするもの。

① 大唐西域記 卷6；仏以生年八十、吠舍佉月後半十五日入般涅槃、当此三月十五日也。

説一切有部則仏以迦刺底迦月後半八日入般涅槃、此当九月八日也。大正51 p.903中

② 釈迦方志 卷上；拘尸那揭羅国中印度……有云、當此土三月十五日者、説有部云、当此九月八日。諸部異議云、至今貞觀二十年、則經一千二百一十二年矣。此依菩提寺石柱記也。或云、千三百年。或千五百余年。或云、始過九百未千年者。大正51 p.960上

ただし通常は2月15日となる。

[3-4] 「9月8日」とするものもある。

① 大唐西域記 卷6；仏以生年八十、吠舍佉月後半十五日入般涅槃、当此三月十五日也。

説一切有部則仏以迦刺底迦月後半八日入般涅槃、此当九月八日也。大正51 p.903中

② 大慈恩寺三蔵法師伝 卷3；仏処世八十年、以吠舍佉月後半十五日入涅槃。当此二月十五日。説一切有部復云、仏以迦刺底迦月後半入涅槃、当此九月八日。大正50 p.235中

③ 釈迦方志 卷上；拘尸那揭羅国中印度……有云、当此土三月十五日者、説有部云、当此九月八日。諸部異議云、至今貞觀二十年、則經一千二百一十二年矣。此依菩提寺石柱記也。或云、千三百年。或千五百余年。或云、始過九百未千年者。大正51 p.960上

ただし迦刺底迦月は通常は8月に相当する。後半8日は8月8日となる。